



森 本 卓 郎

開園して二年目昨年の秋だったと思ひます。「○○ちゃんが、お外で葉っぱを缺で切っているよ」という子供の知らせに、庭に下りて、見ました。どちらかというとおぼれ、そのくせ泣き虫な子、製作や画は、ほとんど、せぬ○○ちゃんが、一心になつて何か切っている所です。私の姿を見ると、急いで持っていた葉と缺を、ポケットにしまいませす。(当園では、缺を庭に持ち出す事は禁じてあります)私は其の時きれいに切り込まれた草履が、葉で作られていることを見ておど

ろきました。切り紙等ほとんどしたこともない子供なのに、私はこのとき理論的には知っているはずの、子供の製作は、素材や作られるものすべて、子供が興味を持つものでなければならぬということを、子供から改めて教えられた、という感に打たれるとともに、日々の仕事に、おわれているとはいへ、色紙や厚紙等の、人工的な素材にのみたよつていた事を、子供に対し申しわけなく恥しくも思ひました。その後は、自分自身も考え、又子供にも教えられつつ、落葉、花、木の実、等々積極的に、製作資材として、用いる事に勉強しました。さて今回、本年度の日本幼稚園研究集の「幼稚園における製作はいかにあるべきか」に出席する機会を得ましたので、繭による製作品を持参致しました所、幼児の教育の編集部より、それについて何か書けとの、お話がありましたので、少しでも幼児教育にたずさわる先生方の、御参考になればと存じ、繭を製作資材に用いた場合の効果及び技術的な面について、少しく御話し致したいと思ひます。

一、繭製品を通して教育上良いと思われる点

- 1、子供は繭を深くしつかりと、しかも興味をもって観察する、蚕の飼育は毎年行っておりですが、昨年までは一寸見ただけであまり関心を示しませんでした。が本年は卵から幼虫(蚕)を経て、繭を作り、さなぎになり、蛾となり、繭をやぶって出てくるまでの全行程を、終始興味をもって、観察しておりました。

- 2、繭という一つの自然物を用いた製作を行った事により子供は自発的に他の自然物を製作や遊びの中に取り入れてゆくようになりました。

- 3、身近にある自然物としての繭を製作に用いた場合、人工的な材料を用いて出来上った製品より、はるかに強い愛着を感じ、大切に扱っていました。

- 4、繭を見て「フクフクして可愛いね」「真っ白できれいね」「ヒヨコちゃんみたいね」等と話合っている言葉が聞かれ、美意識し、創造心を養う助けとなっている

と、思われました。

- 5、立体的な製作品が厚紙や木片に比べ、比較的容易に出来ます。即ち厚紙より、のり付けは簡単、木片より切る事はたやすく紙切り鋏で切れ、又、切り方によって相当変化のあるものも出来、形も原形は丸、隋円、三角に近いもの、大小と、相当面白いものがあります。

- 6、着色も、水性絵具、墨、等可能で、美しきのります。

- 7、使用するものは、くず繭のため、経費も、僅ですみ、材料が豊富に与えられます。

二、製作に当たっての注意

- 1、作品は、繭の持味(形、色、感じ等)をそこなわぬ様、球、半球、環、等の組み合わせにより作り、繭以外の材料を添える場合は、此れら他の材料は、なるべく少ない方がよいと思ひ、
作例(こけし人形、だるま、魚、茶碗、たこ、柄杓、等)
- 2、形や大小のなるべく異なったものを、多く集めておき、子供に自由に選ばせる事に意義が、あると思ひます。
- 3、製作にとりかかる場合、のり付け、着色を、容易にする為め、表面のけばは、よく取っておく様にします。
- 4、穴は明けにくいから、先生が、お手伝します。

さて日々成長しつづつある幼児にとって、自然界の事物や現象は、驚異と興味のよるところであり、これらに直接ふれる事は、尊い経験で、此の尊い経験を積み重ねる事こそ、知識の成長、情操の陶冶の、よりよき手立となる事と思ひます。

(わかき幼稚園)